親字	音訓		文・金文・ 語 ・春秋		説文解字 秦篆	隷(秦・前沿	:書 漢・後漢)	草書	行書		書から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
双	ソウ ふた ならぶ ふたつ			<b>姜</b>	<b>全</b>	襲	雙	まな	<b></b>	雙	便加度	雙	雙
雙				圣山龙間	就又家又	雙	次逐呼		来子室教厅	雙	// / / / / / / / / / / / / / / / / / /	干休子音	雙
2						居延漢簡				論経書詩			零
反	ハン タン ホン そらす	A	R	(a)	月	压	灭	友	久	及	反	反	<b>現</b> 玉集
教3常①	そる かえす かえる	人	金文	睡虎地泰簡	原文篆文	馬王堆	史晨後碑	七月帖	浮化開帖	張猛龍碑	孔子廟堂碑 <b>人</b>	五経文字	王勃詩序
友	ュウとも	KK	X	郭店楚簡	説対対	居延漢簡	类	发	女	奏	及	友	龙
教2常①		K K	毛公鼎	郭店楚簡	**************************************	11	鮮于境碑	教子学文	大観帖	大	<del>製</del> 能顛碑	大	女女
		甲骨	和	郭店楚簡	製工	馬王堆	表達	欧陽詢		天 天	大	友	女
					説文古文	馬王堆	交			元緒墓誌	泉男生墓誌	五経〈隷省〉	聾瞽指歸
			侯馬盟書				熹平石経			元彦墓誌			
収	シュウ おさまる おさめる			収	1 1	45			牧			收	权
收				<b>6</b> 欠	説文篆文	<b>男</b>	少文	智永千字文	興福寺断碑	一权	等慈寺碑 オス	山文	王勃詩序
_ Д				包山楚簡		男王堆	曹全碑			火火	り欠	五経・序	王勃詩序
						居延漢簡 型文 居延漢簡				于景墓誌 イ文 響龍顔碑	信行禅師碑		

り、「雙」がない。

【友】1字に2ヵ所の右払いがある張猛龍碑は例外中の例外。

【双】上代にアメカンムリに作る字がある。平安時代に小野 【収】偏を2画とする字書と3画とする字書がある。康熙字典 道風が屛風土台で2種の字体を使っている。江戸期以降は は2画としている。本書では参考にしている『JIS 漢字字典』 「雙」よりも「双」の方が隆盛。弘道軒には「双」だけがあ に倣って3画とした。しかし「収」の異体字の「收」は『JIS 漢字字典』でなぜか「攴」の2画になっている。旁は本来は 「支」で、説文篆文はその字体。漢代に「攵」に変化したもの

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 <sub>大正8年</sub>	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 <sup>昭和21年</sup>	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参	考
雙	関化一寸用文	双	双	7,1	双		双	双		双		雙	双
霆	<b>7</b> 7	雙			供于安見		雙	奠				1 1 1 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	双
屛風土台	謹身往来	隹10											現代中国
<b>人</b>	<b>友</b> 算用地方指南	反	反	页	反教科書〈正〉		反	反	反	反。	反		反 現代中国
		反			<b>反</b>								
灰'	太	友	友	支	发		友	友	友	友	友	友	友
女	友 女大学	爱故			明石の漢子							1 198 (107)	光代中国
		書											
		艸											
		岧											
引女 <sup>安宅切</sup>	<b>水</b>	収	収		收		收	收	45	4又	収	1又	收
投入	收	收	妆		収	山 <b>火</b>						収数	リス 明治の漢字 〈許奕〉
大人	EQ1/13	7.			收集	345-44-14 <sup>8</sup>						业文 教科書〈正〉	上 収 明治の漢字 〈標準〉

が現れ、南北朝期に「又」が出現する。陸軍幼年学校の用字 便覧では、旁を「攴」とする字体を本字とする。

親字	音訓	甲骨: (殷・西	文・金文・ 酒周・春秋	古文 ・戦国)	説文解字 秦篆		書 漢・後漢)	草書	行書	楷 (南北朝/	書から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
取数3常①	シュとる	Ø ₽ ∰	<b>64</b>	<b>身</b> 取 睡虎地秦簡	東	野馬王堆	<b>耳</b> 叉	る	取	取元継墓誌	取 ndg	取	<b>灰</b>
教が		B	पुष	射	此人永人	瞑	取	な	取	耶	取	取	T-4014411.
		甲骨	毛公鼎	取		馬王堆	熹平石経	ナと帖	蘭亭叙	于景墓誌	皇甫誕碑	五経文字	
受	ジュ うかる うける	焦	CH.	子弾庫楚帛	鬥	民延漢簡	更	ナヒ帖	受	类	受	受	受
数3常①		甲骨 サ 甲骨	大盂鼎	野店差簡	説文篆文	馬王堆 <b>夏</b> 居延漢簡	夏	澄清堂帖	集字聖教序	中暗器	孔子廟堂碑	干禄字書 一 「 五 経 文字	王勃詩序
		中背	毛公鼎	<b>孙</b> 后定問		居延漢簡	受利的解			受網線	<b>雁冶室敦</b> 护	五柱又子	
叔	シュクおじ	₽ 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世 世	大克鼎	杉	棉	が馬王堆	活か	<b>う</b> +と帖	特	ナーナー 黄夫人墓誌	料皇前瀬碑	まな	林
m·		TB	大会が金文	<u> </u>	加加	がまり、 馬王堆	<b>赤义</b>	1 041	眉 从小	一种元珍嘉誌	至田郷神	ポス 五経〈説文〉	おく
			(美)		此人永人	おり馬王堆	日土坪			分計		が	対常社家立成
			次河脈音			かう 武威漢簡				叔元熙墓誌		ILEE (118E)	红水丛风
叙	ジョ	分		舒	舲	此級採問	<b>ネ</b> 文	3	叙	叙	<b>拿</b> 御注金剛経 宣演巻上	敍	<b>紅</b>
敍		тв		外的包山楚簡	此人家人		京义北海相景君碑	日田	<b>秋</b>	秋	amer.	余文 <sub>五経文字</sub>	<b>春</b> 人 王勃詩序
敘				区山龙間			<b>州州州京北</b> 野		100万0人第二年	医纵巴茶醇		11世义于	T-4N9413,

【受】甲骨の上の例が康熙古文に合致するもの。2番目が郭店 字で〈石経〉となっている字体は、通用字体よりも点が1つ 楚簡と合致するもの。睡虎地秦簡は「又」の上に「一」があ 少ない。この字体は拓本版の干禄字書にもある。石が荒れて り、この字体は漢代まで受け継がれている。さらにその字体 いて〈通〉なのか〈俗〉なのか判然としないが、残った部分 が「丈」に受け継がれているのかもしれない。

は「亻」に見えるのでたぶん〈俗〉なのだろうとおもって江 【叔】説文篆文に旁が「又」と「寸」の2種がある。五経文 戸版の干禄字書で確認すると〈通〉になっている。五経文字

										-	1170	一 一 八	川州年別
平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 <sub>大正8年</sub>	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参	考
取	砜	取	取	取			取	取	取	取	取	取	取
元暦萬葉①	<b>第</b> 用	又6										事 事	現代中国
元曆萬葉①	節用											江戸五経〈訛〉	
<b>美</b>	80° DT 101-4-801-0-	受 26	受	_			受	受	经	受	受	受報網	受現代中国
	算用地方指南 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	殿		党								夏藏繭	
独	叔父	叔	与				赵	叔		叔		ᇷ	叔
粘葉本朗詠 なく 墨流本朗詠本	消息往来	又6	APC							11		干禄〈?〉	現代中国
<b>叙</b>	叙	叙	叙		敍	叙	叙	京大 手書き原稿		叙		余又	叙
叙	RIJ/HJ	敍	敌		敍		敘					秋	叙
元曆萬葉⑥		χ,			敍			<b>被</b>				TLTER!	79回ジ供す、計谷/
					叙解			秋 1947年官報·正					

で〈石経〉となっているが、開成石経に使われている字体は のが理解できる。「支」にも縦線が中央のものと左に寄った 「叔」なので、五経文字が示す石経は熹平石経か正始石経のこ とだろう。

さそうな気がする。子弾庫楚帛を見ると「攴」が「攵」になる 名に使えない。

ものの2種がある。当用漢字表の手書き原稿では「敘」だっ たが1946年の官報で印刷された字体は「敍」(の縦線が左に 【叙】説文篆文では旁が「攴」だが、甲骨に従えば「又」でも良 寄ったもの)。翌年、官報で「敍」に訂正された。「敍」は人

親字	音訓	甲骨: (殷・西	文・金文・ 3周・春秋	古文 ・戦国)	説文解字 秦篆	隷(秦・前	· 書 漢・後漢)	草書	行書	楷(南北朝加	書から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
叛	ハン ホン そむく				<b>躺</b>		<b>牧</b>	移		私	<b>松</b>	投票	廣開土王陵碑
					机人永人		Se, trivine	送出主報		叛	叛	州外石柱	<b>澳州上土农</b> 种
										元珍墓誌	泉男生墓誌		
叡	エイあきらか			F82	点	刨	愈			曾		叡	赧
睿				中山王方壷	説文篆文 高 説文古文	馬王堆 ・	甘陵相残碑 を文 魯峻碑			京始和墓誌 <b>育</b> 明此于墓文	孔子廟堂碑 春 等慈寺碑	干禄字書 皆 干禄字書	灌頂記 接後 嵯峨天皇
					配業					<b>宣</b> 笑	<b>松</b>	<b>管</b> 义	
										<b></b> 機	省义	旨	
										餞			
叢	ソウ くさむら むらがる			<b>登</b> ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	当					東元回墓誌	<b>散</b>	<b>港</b>	<b>載</b>
										<b>薬</b>	慕	<b>散</b>	<b>載</b>
													<b>美</b> 伝嵯峨天皇
数1常①	コウ ク くち くちへん	III	IJ <sup>⊕X</sup>	り郭店楚簡	日	に 馬王堆	桐柏廟碑	3 淳化閥帖	12 集字聖教序		12	口 <sub>五経文字</sub>	天 <sub>王勃詩序</sub>
右	ウ ユウ みぎ たすける	X 甲骨	A ex	引第店差簡	司	る馬王堆	古	お興福寺断碑	右	右		右和	大
			る	中山王鼎			古西狭領		右	右元珍墓誌			大 東大寺献物帳 大小王真跡帳

は「半」の草書を「米」と間違えたのだろう。

【右】書き順は中国では左払いを先に書くものが圧倒的に多 になる。現代中国では横線を先に書くそうだ。 い。ところが日本に伝わったのは横線を先に書く書き順だっ

【叛】北魏の王僧墓誌では、偏が「米」になっているが、これ たようだ。平安中期には左払いを先に書くものと、横線を先 に書くものが共存するようになる。江戸期は横線を先に書く 【叡】干禄字書に2種、五経文字に2種の正字体がある。 ものが圧倒的に多くなり、左払いを先に書くものはごく少数

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 <sub>大正8年</sub>	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参	考
<b>科</b>		叛	叛		叛		叛						叛
四十五回條起請文	松飾用	又7			教科書								現代中国
	節用 <b>着人</b> 謹身往来												
秦 <b>义</b>	叡	叡	敿	Re			叡						睿  現代中国
粮 後花園天皇		本 対											
		壡											
Ž,	鈭	叢	坐				叢					莱	从
秦 医藤原行成 <b>秦</b> 探 教切	節用	又16	取				政					子禄〈通〉	現代中国
<b>黎</b>												<b>下禄〈通〉</b> <b>「「「「「「「「「「」」」</b> 「「「「「五経』」)	
12 粘葉本朗詠	<b>}2</b> <sup>節用</sup>	口。右	口	R					ロ				現代中国
た 伝藤原行成	た。	右口	右	加			右	右	左	右	右		右 現代中国
<b>R</b> 藤原師輔	お言名尽												

親字	音訓	甲骨: (殷・西	文・金文・ 語ので 記載で 記載で 記載で 記述で 記述で 記述で 記述で 記述で 記述で 記述で 記述で 記述で 記述	古文 ・戦国)	説文解字 秦篆		· ?書 莫・後漢)	草書	行書	楷 (南北朝/		正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
可 数5常①	カ ばかり べし	刊	छ	リ <sub>石鼓文</sub>	可	J	可可	<b>万</b>	9	張猛龍碑	月九成宮	可	7
数5部①		B	動	可	説文篆文	馬王堆	石门架	TOM	興福寺断碑	次無服件	儿风呂	干禄·序	1
		甲骨	ず	郭店楚簡		居延漢簡							風信帖
叶	キョウ かない かなう		侯馬盟書	郭店楚簡		居延漢簡		of		叶	叶		nf
旬	þ	闽	5	5	9	터	囙	唐·書譜		元徽墓誌	温彦博碑	句	響階級
教5常①		甲骨		±x Sy	説文篆文	馬王堆	熹平石経			馬服群造像	孟法師碑	江戸干禄	法華義疏
古	コ ふるい ふるす	出	金文	郭店楚簡	古	武威漢簡	古	ち	古	古古	古	古	野部線
教2常①	いにしえ	甲骨	金文古	石鼓文	説文篆文	馬王堆	乙瑛碑	智永千字文	集字聖教序	高貞碑	孔子廟堂碑	干禄·序	王勃詩序
			並	中山王方並	説文古文	居延漢簡			蘭亭叙				
   <del></del>	ゴウ さけぶ		金文	郭店楚簡	붕	输	鏞	循		另	号	号	号
数3常①	C 17-5				湯※※※	馬王堆	樊敏碑	喪乱帖		元證墓誌	伊闕仏龕碑	号を	新
2					説文篆文					去然	場合	玩 号 定	稠玉集
										孝女曹娥碑	熟	江戸五経	
										シャ 素女曹娥碑 名手	圭峰禅師碑	九経·序	
										孝女曹娥碑			

【叶】説文篆文にはなく、最も古い使用例は南北朝時代。説 がある。 文に「協」の或体として「叶」の字体があり、陸軍幼年学校 【号】「號」の略字ではなく、初文が「号」で後に「虎」を加 の『用事便覧』に「協」の古字として「叶」の字体が掲載さ えたらしい。五経文字の例は最終画が省かれているが、これ れているがともに「叶」とは別の字種。

は誰かの名を避諱したものだろう。たぶん唐の太祖=李虎。 【句】「口」が「ム」の形になるため、「勾」の字体になること 漱石は『ぼっちやん』中に8カ所「号/號」を使っている。

										U	于仲及旭	字典』大	RK ≠5PVII
平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 <sub>大正8年</sub>	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 <sup>昭和21年</sup>	太宰治 人間失格 <sup>昭和23年</sup>	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参	考
藤原行成	可節用	可	可	9			可	可	01	可	可		可現代中国
	農家用文章大全			न									
	また ま												
和歌體十種	がす	叶					叶						計 <sup>現代中国</sup>
句元歷典等	も節用	句	句	4)			句	句	幻	句	句	勾	行 <sup>現代中国</sup>
る ************************************												1 1000	301111
古	た	古	古	古			古	古	古	古	古		古現代中国
元暦萬葉⑬	消息文鑑尺牘楷梯	野鼓											3614114
2	挹	口	巴	12		P	马去	9.	ı÷	묵	D	猯	——————————————————————————————————————
<b>子</b> 粘業本期詠	<b>多</b> 本願念仏利益章	号	つ	7	万	<b>与</b> 漢字整理案	號	7	5	ク	7	<b>プル</b>	号現代中国
號	鄉	號	號	净	号明治の漢字			(號)					号
示問人王	EQI/TI	<i>7</i> 27			場場の漢字								261VT144
·長」のf	I to have been	(fets E3)	/ 4 = 116	45.2 - 2.2		,							

「号」の使用例は〈第一号〉、〈会議の続きだと号して〉、〈いの 一号に〉が2度、〈六号活字で〉の5回。「號」の使用例は〈屋 號〉、〈號令を下した〉、〈鋭い號令〉の3回。